

# 東京都環境科学研究所 令和7年度公開研究発表会

参加  
無料

日頃の研究成果を東京都環境科学研究所の研究員が発表します。  
どなたでもご参加いただけます。（定員：会場70名／オンライン400名）

日時

令和8年 1月23日（金） 13：30～16：40

会場

・新宿NSビル30階 NSスカイカンファレンス ルーム3・4  
・ Zoomを活用したオンライン配信 （※事前申込制）



## ■ 基調講演

### 「環境DNAが切りひらく未来」

国立研究開発法人 土木研究所 流域水環境研究グループ  
特任研究員 村岡 敬子 氏

【プロフィール】村岡敬子（むらおか けいこ）。山口県出身。専門は土木工学。1983年建設省土木研究所に入所し、主に魚関係の課題に取り組み現在に至る。近年は河川管理の現場における環境DNAの活用に向けた研究に取り組んでいる。趣味は、「伝統工芸品に触れること」と「各地の郷土料理等を妄想アレンジレシピで再現すること」。ある朝スーツがはいらなかったことをきっかけに、ビジネスシーンでは着物を着用している。モットーは「寿命以外は何とかなる（何かしらできる事がある）」。

## ■ 研究発表

1. 環境DNA調査でみえてきた都内淡水域における保護上重要種の生息状況  
環境資源・生物多様性研究科 研究員 西田 一也
2. 化学物質の生態リスク評価に関する共同研究の概要  
環境リスク研究科 主任研究員 西野 貴裕
3. EV路線バスの大量導入に向けた電力使用量の推計と電力供給手法の検討  
気候変動・環境エネルギー研究科 特任研究員 小谷野 真司
4. 高濃度光化学オキシダント対策に向けた大気中VOCの研究  
気候変動・環境エネルギー研究科 主任研究員 棚島 智恵子

## ■ ポスター発表

その他の研究成果について、会場後方にてポスターを展示します。  
ポスターは13：00～13：30と16：40～17：10の間、研究員が解説します。

裏面に各発表内容の詳細を掲載しています

URL 事前申込み・詳細はこちらから

<https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/>

申込締切  
1月18日



東京都環境科学研究所 令和7年度 公開研究発表会



お問合せ

公益財団法人東京都環境公社 東京都環境科学研究所 研究調整課 企画調査係

TEL：03-3699-1333 E-mail：kanken@tokyokankyo.jp

## 会場MAP



発表詳細	
<div> <div> <div>基調講演</div> <div>13 : 35 ~ 14 : 30</div> </div> </div>	<div> <div>環境DNAが切りひらく未来</div> <div> <div>国立研究開発法人 土木研究所 流域水環境研究グループ 特任研究員 村岡 敬子 氏</div> <div> 水から生物情報を得る環境DNA調査は、世界各国で、研究分野から市民調査に至るまで幅広く活用されていると言っても過言ではないでしょう。国土交通省が30年来行っている生物の全国調査にも、令和8年度から環境DNAを実装することになりました。河川管理の現場ではいまでも環境DNAではないDNA情報を、河川管理の現場に展開しながら課題解決を図ってきました。環境DNAの活用がさらに広がるその先に、河川の生物を取り巻く情報はどのように変わっていくのか、一緒に妄想しませんか。 </div> </div> </div>
<div> <div>研究発表</div> <div>14 : 30 ~ 15 : 00</div> </div>	<div> <div>環境DNA調査でみえてきた都内淡水域における保護上重要種の生息状況</div> <div> <div>環境資源・生物多様性研究科 研究員 西田 一也</div> <div> これまで都内では生物多様性が年々低下しており、保護上重要種が増加してきました。そこで当研究所では都内淡水域における保護上重要種の生息・生育状況等を把握するため、2024年度から魚類や両生類を対象として、従来の採集などの調査方法に加えて環境DNA調査を実施しています。本発表会では、これまでの調査分析を通してみえてきた環境DNA調査の有効性、保護上重要種の生息・生育状況や保全方法等について発表します。 </div> </div> </div>
<div> <div>研究発表</div> <div>15 : 10 ~ 15 : 40</div> </div>	<div> <div>化学物質の生態リスク評価に関する共同研究の概要</div> <div> <div>環境リスク研究科 主任研究員 西野 貴裕</div> <div> 本研究所では、これまで化学物質による水生生物に対する生態リスク評価を進めてきました。生態リスクを評価するには、水環境中に存在する化学物質の濃度を分析するだけでなく、その毒性評価も必要になります。そのため、外部機関との共同研究を通じて、それぞれの機関の得意分野を補い合うことで、東京都内にとどまらず国内の水環境をフィールドを対象にリスク評価を進めてきました。今回はその概要をお話します。 </div> </div> </div>
<div> <div>研究発表</div> <div>15 : 40 ~ 16 : 10</div> </div>	<div> <div>EV路線バスの大量導入に向けた電力使用量の推計と電力供給手法の検討</div> <div> <div>気候変動・環境エネルギー研究科 特任研究員 小谷野 眞司</div> <div> 脱炭素社会の実現に向けて、電力のCO2排出係数の低減とともに化石燃料を使用する自動車を電気自動車（EV）に転換していく必要があります。本研究では、都内を走行する路線バスのEV化を想定し、バス路線毎の運行ダイヤ等を基に必要となる電力使用量を推計しました。また、EV路線バスの大量導入に向けて、将来技術である走行中給電も見据え、段階的な電力供給方法について検討した結果を紹介します。 </div> </div> </div>
<div> <div>研究発表</div> <div>16 : 10 ~ 16 : 40</div> </div>	<div> <div>高濃度光化学オキシダント対策に向けた大気中VOCの研究</div> <div> <div>気候変動・環境エネルギー研究科 主任研究員 棚島 智恵子</div> <div> 環境対策が進み、東京都では、多くの大気環境基準項目が環境基準を達成していますが、光化学オキシダントは環境基準未達成であり、今でも夏季を中心に「光化学スモッグ注意報」が発令されています。本発表では、光化学オキシダント生成原因物質のひとつである揮発性有機化合物（VOC）について、都内における大気濃度の経年変化やオキシダント生成に寄与の大きなVOCの特定に向けた研究成果を紹介します。 </div> </div> </div>
<div> <div>ポスター発表</div> <div>13 : 00~13 : 30 / 16 : 40~17 : 10 の間は研究員が解説します！</div> </div>	
<div> <div> <div> <div> <div>市民参画による再生ビジョンの構築と価値評価</div> <div> <div>－沿岸環境・生態系デジタルツインの開発と実践－</div> <div>環境資源・生物多様性研究科 主任研究員 石井 裕一</div> </div> </div> <div> <div>ダイオキシン類の概要と汚染原因調査事例の紹介</div> <div>環境リスク研究科 主任研究員 佐々木 啓行</div> </div> <div> <div>首都圏における電化促進及びデータセンター増加が電力需給へ与える影響</div> <div>気候変動・環境エネルギー研究科 主任研究員 片野 博明</div> </div> <div> <div>野鳥生息地としての東京都保全地域の環境に関する考察</div> <div>気候変動・環境エネルギー研究科 研究員 崔 麗華</div> </div> <div> <div>各種走行パターンにおける電気自動車の回生電力量について</div> <div>気候変動・環境エネルギー研究科 主任研究員 濱 良仁</div> </div> </div> </div> <div> <div>（会場特典）</div> <div> </div> </div> </div>	